　　　　顕体宇宙本尊抄

　「体宇宙」の本尊を顕す。

　　　　　　　　　　　　　　上野博隆

　人の生命には、二つ宇宙の相あり。

　　一つは、脳の核の宇宙なり。

二には、体の核の宇宙なり。

　　脳の核の宇宙は御本尊なり。

体の核の宇宙を今顕す。

　其の所以は、世間から病を無くすためなり。各臓器の働きを記し善き菩薩とする。祈りの御本尊の補助とする。祈れば各菩薩が働く。しかし、補助である。努々間違う勿れ。

　脳には、五体が備われり、体には心が備われり。依って、二つ成れど不二なり。二つをもって一と為す。脳体不二。以下、各臓器を「名詮自性（みょうせんじしょう）」で名づける。

　先ず、中央に「南無妙法蓮華経」を記すは

心なり。（恒星）

臓器の名に頭に「善」。最後に「菩薩」を記す。

「善」は、「速成熟善身」の善である。

「菩薩」は、所以、我本行菩薩道であるゆえに「菩薩」を用いて現世と成す。

　（脳、下垂体）を記す。

　一念の発露である。記憶の保存場所である。故に「覚える」の覚を付ける。思う所である。観ずる所である。故に「脳」「下垂体」の臓器を名付ける。（恒星）

　（心臓）を記す。

　血液循環の原動力となる臓器。収縮と拡張を交互に繰り返し、静脈から戻ってくる血液を動脈に押し出し、全身に送る。よって、「張」と「縮」を記す。「力」の源である。「脈」は循環器系を表す。故に「心臓」の臓器を名付ける。（恒星）

　（口）を記す。

　唱える仏の心の名。言葉として心を伝える。故に「口」の臓器を名付ける。（恒星）

　次に五根を記す。「観」は五根を示す。

　（舌）を記す。

　生きるために食べるのは当然の行いである。しかし、舌は味を観ずる。美味しいという感情の欲を持つ。「唱」は、呼吸器系の「呼」の意味である。故に「舌」の臓器を名付ける。（衛星）

　（目）を記す。

　信を映す臓器なり。故に「目」の臓器を名付ける。（衛星）

　（耳）を記す。

　声と音楽を観ずる臓器なり。故に「耳」の臓器を名付ける。（衛星）

　（鼻）を記す。

　香りと臭いを観ずる臓器なり。故に「鼻」の臓器を名付ける。（衛星）

　（皮膚・髪・毛）を記す。

　肌善き姿をもって美と成す。「皮膚」「髪」「毛」を名付ける。（衛星）（塵）

　（筋肉）を記す。

　力を生み舞う。速さを操つる。リズムをとるゆえに脈を付ける。「筋肉」を名付ける。（惑星）

　（静脈）を記す。

　組織より酸素の「老い」を防ぎ、命を戻すなり。「脈」は循環器なり。故に「静脈」を名付ける。（衛星）（塵）

　（動脈）を記す。

　栄養と酸素を組織に運ぶ。「脈」は循環器なり。故に「動脈」を名付ける。（衛星）（塵）

　（歯）を記す。

　食物を砕くものである。口は唱える故に「唱菩薩」とする。「歯」を名付ける。（惑星）

　（喉）を記す。

　息が通る道である。口は唱える故に「唱菩薩」とする。「喉」を名付ける。（恒星）

　（気管）を記す。

　気を運ぶ。呼吸器系ゆえに「呼菩薩」とする。「気管」を名付ける。（惑星）

　（肺）を記す。

　空気を清く吸う。呼吸器系ゆえに「呼菩薩」とする。「肺」を名付ける。（恒星）

　（横隔膜）を記す。

　呼吸を作用する。呼吸器系ゆえに「呼菩薩」とする。「横隔膜」を名付ける。（衛星）

　「消化器系」を記す。食に位置する故に「食菩薩」と付ける。

　（食道）を記す。

　善き食を通す道なり。「食道」を名付ける。（惑星）

　（胃）を記す。

　胃液を分泌して食物を消化する。善く溶かす。「胃」の臓器を名付ける。（惑星）

　（十二指腸）を記す。

　胆汁や膵液が分泌される。胆汁酸・胆汁色素で、脂肪酸の消化・吸収を容易にする。膵液は、胃の中で酸性になっている内容物を中和する働きがある。故に「十二指腸」の臓器を名付ける。（惑星）

　（肝臓）を記す。

　胆汁を生成するほか、糖・たんぱく質・脂質・ホルモンの代謝、有害物質の解毒、血液の貯蔵などの働きをする。故に「肝臓」の臓器を名付ける。（恒星）

　（胆嚢）を記す。

　肝臓でつくられた胆汁を一時的に蓄え、必要に応じて十二指腸へ排出する。故に「胆嚢」の臓器を名付ける。（惑星）

　（膵臓）を記す。

　消化液。インスリンを分泌し体内組織における糖質・脂肪・たんぱく質・核酸の合成・貯蔵を促す作用があり、特にぶどう糖の筋肉内への取り込みを促進させ、血糖を減少させる。故に「膵臓」の臓器を名付ける。（恒星）

　（空腸、回腸、小腸）を記す。

　消化、栄養素の吸収を行う管状の臓器。故に「小腸」の臓器を名付ける。（惑星）

　（盲腸・結腸・直腸、大腸）

を記す。

　腸内細菌による発酵や水分の吸収などが行われる。故に「大腸」の臓器を名付ける。（惑星）

　（肛門）を記す。

　便を閉じる口なり。故に「肛門」を名付ける。（惑星）

　「泌尿器系」を記す。「内分泌系」を記す。しみ出る故に「泌菩薩」「泌」を付ける。

　（腎臓、副腎）を記す。

　血液からの尿の生成が行われる。濾過する。故に「腎臓」「副腎」の臓器を名付ける。（惑星）

　（膀胱）を記す。

　尿を蓄積する。故に「膀胱」の臓器を名付ける。（惑星）

　（尿道）を記す。

　必ず尿を排出する道なり。「尿道」を名付ける。（衛星）

　（生殖器、髪、毛）を記す。

　生殖器は、我の親であり母である。生を繁殖する臓器である。故に「生殖器」「髪」「毛」を名付ける。（恒星）

　（リンパ腺、甲状腺、胸腺）を記す。

　リンパ球。骨髄で生成され、リンパ節・胸腺などで分化・成熟・増殖し、免疫を担当する。故に「リンパ腺」「甲状腺」「胸腺」を名付ける。（恒星）

　「観」は神経。「泌」は酵素、ホルモンの分泌。

　宇宙の構成に訳して、現代要素を使い「恒星」「惑星」「衛星」を記す。「善…菩薩天」と記入するのは、十界互倶の所以である。※文中に星の種類を（）で記す。

　　以下、「顕元初本尊開示抄」より。

　「南無妙法蓮華経」のもつ意味について。

　歴史から人間には、仏の心、神の心、魔者の心が存在していることを広く理解するように成った。（見於三界の義）

　詳しく述べると、仏の心とは、人を愛する心。悪に作用すると、身近な人のみに愛情を多く注ぐ愛情過多を起こす。神の心とは、人を導き支える心。悪に作用すると、人を自分の思うように支配したがる。魔者の王の心とは、欲望を支配する。悪に作用すると、自分の利益のある欲望に振り回され、欲望に溺れる。

　元初の南無妙法蓮華経は、全てを善に帰依させることである。

　日蓮大聖人の仏法では、十界互具を説き、生命は、日々、目まぐるしく動く。それを仏界の御本尊と縁することによって脱すると説いた。

　元初において、私が顕した本尊は、三界を明見する。つまり、仏界の心とは、より多くの人を愛していく。神界の心とは、自身だけでなく、他の人も良い方向に導き支えていく。魔界の王の心とは、外界の欲望に負けずに、善へ欲望の方向を向ける。よって、十界互具を脱する。（如来明見の義）

　この三界の明見を、宇宙の始まりの心は、元々持っていると説く。もう一こと言うなら、その心の持つものは、仏の明見であり。仏の心の相である。

　　元初の南無妙法蓮華経の唱え方。

　「なむみょうほうれんげきょう」と唱える。

　リズムは、大白牛車を引く牛のごとく「パッカパッカパッカ」と唱えるべし。御本尊の「妙」の字に向かって唱えるべし。

　以下、骨を記す。骨は広義の諸天故、名をそのまま記す。

　　四天王を記す。

　本尊の四隅に、大広目天王、大多聞天王、大増長天王、大持国天王を記す。

　持国天は、東方を守護する。東方とは、神仏の国なり。天の国である。広目天は、西方を守護する。西方とは、理の国なり。西方浄土、科学の国（先人の国）である。多聞天は、北方を守護する。北方とは、俗界の国なり。増長天は、南方を守護する。神仏の子の国なり。銀河である。

　働きを記す。持国天は、信仰する者を守護する。広目天は、衆生（民）を見る。多聞天は、法を聞く。増長天は、煩悩を離れる。

　体の機能を記す。広目天は、腕の骨。多聞天は、足の骨。増長天は、胸骨。持国天は、背骨です。（恒星）

　各四天王の名を取り、隣りに筋肉の名を記す。「善力広目脈菩薩」「善力多聞脈菩薩」「善力増長脈菩薩」「善力持国脈菩薩」。まとめた名を記した「善力舞速脈菩薩」はそのままにする。（衛星）

　　諸天善神を記す。　心の作用を合わせて、意味があるからそのまま引用する。

　狭義の諸天善神を肉体の周りに記す。

　天照大神は、日本古来の神。仏法が伝来したとき、仏法を行ずる者（信仰する者）を守護すると誓った。今、虚空会の儀式で善に帰依すると誓った。恵みの太陽、恵みの心。

　焼の如来神は、煩悩を焼き滅する。善に背く心を焼却する。情熱の心。自身の世尊を一番尊ぶ心。

　光の如来神は、太古の種族。光をもたらす。エネルギー、魅力、容姿、全てを形作る。

　闇の如来神は、太古の種族。宇宙は、光と闇から始まったとする最初の種族。人の心を癒す。欲望を制御する。

　水子地蔵は、世の中に生まれて来れなかった子、また、親より早く死んだ子。生気を吸い、福運を食らった。しかし、「同じ親の元にもう一度生まれたい」と願った。その願いを仏法の行者が聞きとどめた。「福運は、人のために使うものと、全ての福運をあげる」との言葉に感動して、自ら善を行ずる子になると誓った。子の親に対する愛情を表現する。

　口結び子は、下呂を食い、生をつないでいた東の衆生。仏法を信じたが、法華経の行者を誹謗した因により餓鬼界に落ちていた。しかし、阿弥陀仏様が法華経に帰依するとき、一緒に成仏した。嘘をつかず真実の口を結ぶ。

　妖精は、神仏に仕える人の気持ちが伝わり神仏化した。もの、生き物、自然、大地を愛する心。

　天使は、神の使いとして自然を操り、神に逆らう者を罰してきたが、全宇宙が滅びかけたとき、一人の救える者を選ぶ。その時、仏法の行者を選び救った。そのアルマゲドンの中、人を裁いてきたが、自分自身を裁き、善を行ずることを誓った。神仏の使いとして行ずる心。

　死の神仏に、「光の民」と「闇の民」と「菩薩」が集いて成る。一に死神あり。二に病魔あり。三に物の仏あり。四に人形の仏、五に悪魔。六に冥途の国。

　一に死神。

日本の死神。法華経の行者を守護するために影に隠れ、人を殺していたが、殺生の罪で重く心をふさいでいた。しかし、「自ら行事なさい」との言葉を聴き、目が覚め、自身が仏法に背いていたことに気づいて、善に生きることを誓った。殺生を断じ。罰する悲しみの心。後に菩薩となる。西方浄土に住む。

西洋の死神。近代の死神。死を司る神であったが、魔族の王が仏法を信じた時、生死を司る菩薩になると予言がありそれに従う。死を司る国で暮らす。

ハデス（地下界の王）と住民。死を司る国に菩薩と菩薩に従う民として暮らすこととした。

　二に病魔。

病のウイルスを身に宿す。因に従い病を送っていた。魔族の王が立教した時、死を司る菩薩に成る。身のウイルスは妖精になる。ただし、死を司る国でのみである。病魔で死んだ動物や人間はその国に生まれる。

三に物の仏。

はじめて、仏法者が悪魔を仏法に帰依さした時、力を授かった。その力で街を清掃する菩薩を生みだした。仏法者が立経したとき、物の仏の国の住人となった。ゴミを自然に帰依させる。きれい好きな同名天も暮らす。海のプランクトン。妖精に生まれる。ゴミを食べて死んだ動物や魚等は、物の仏の国に生まれる。鉄に当たって死んだ動物や魚も物の仏の国に生まれる。

四に人形の仏。（人形の死を司る）。

キルケーは、気に入った人間の男や女性がいると島に連れて行って養い、飽きると魔法で獣や家畜に変えて暮らしている。夜は獣人と昼は光あるとこでは人形に変えられた。店小屋で働かせていた。

しかし、一人の仏法者と知り合う。いろいろ嫌がらせを仏法者にしたが、仏法者は、忍耐し獣人を哀れに感じた。獣人もキルケーもその心を知り、信仰をすることを誓った。

そして、仏法者が立経したとき、人形の仏に成った。キルケーは、人形の女神になった。男の獣人は、性の良いものは人形の仏に、悪いものは女性の獣人になった。人形の仏は、人形を成仏させ物の仏の国に住まわせる。いなくなった男の獣人は、新たに因のある人間を魔族が契約させた。

五に悪魔。

魔族の王が仏法に帰依したため、それに従い仏法に帰依した。よって、因果に則り罪を諫める役目を負う。しかし、罪の果を受けた者が許すか。世尊が許した場合は、罪を許すものとする。

六に冥途の国。

二首竜と乱暴者の国。罪を犯して死んだ人を冥途に連れていく。被害者の記憶の無限地獄に落とす。仏法者が立経した時に、人の姿となり、冥途の国は生まれ変わる。

※全て魔族（Night Godの種族)とする。「元初の南無妙法蓮華経」に受持し善に生きることを誓った。罪あれば、諫めることを許す。

　十羅刹女は、子なり。弟、妹。親の言うことを聞く。親、仏に従う心。　鬼子母神は、母親の心。後にサタン（魔族の母）も角を折られ仏法を信じた。阿修羅は、闘争心。軍隊もこれにあたる。　八幡大菩薩は、国を守る心。王法守護。八大竜王は、自然なり。

　諸天善神の体の機能を記す。肋骨なり。

　大は、集を表し、王は、主を表す。

　本尊に、天王如来、十羅刹女を記すは、男に女性の心あり。女性に男の心あり。男女対等を現わすなり。

　聖霊、転輪聖王は、神仏の使いおし信仰する自身の姿である。鎖骨なり。この本尊は体故に諸天善神に記す。自身の信仰する心なり。

　肋骨と鎖骨は衛星なり。

　天王如来を諸天に記す。

天王如来は、提婆達多（ユダ）が、罪をつぐない生まれ変わった姿です。蓮華の座に記す。師、親を超える気持ち。提婆達多の心は、上に逆らい悪を成す。肋骨に追記す。

三界の王を記す。心とする。

　仏界は、釈尊、日蓮如来仏なり。神界は、アラー。イエス・キリスト。魔界の王に、ナイト・ゴットを記す。

　アラーは、焼の如来神の王である。イエス・キリストは、光の如来神の王である。ナイト・ゴットは、闇の如来神の王である。天皆尊は、日本、世界中の自然界の神をさす。自然界を尊ぶ心である。　海外の神。ゼウス（天空神）、ポセイドン（大洋）、ケッアルコアトルを含む。

　　阿弥陀如来を記す。

　阿弥陀仏が法華経に帰依したことを明らかにする。働きは、無量寿仏、無量光仏なり。

　無量寿仏は、「前に向かう気持ち」、細胞の新陳代謝。無量光仏は、エネルギーの受け取り蓄積と発生を司る。釈迦牟尼仏の代わりに三界の王に記す。二仏身と四神身で十界の王と成す。（魔族の王は、神の身とする）

　以上をもって体の核の宇宙の本尊とする。

祈れば速、善の身に熟する成り。

　　　　　　　　　２０２０年１月１２日